

病害虫情報(第6号)9月予報

令和7年8月29日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333
ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

【内容】

- I 9月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例 1
 【水稻、カンキツ、ナシ、ブドウ、カキ、チャ、抑制トマト、抑制キュウリ、促成イチゴ、ナス、ネギ、キャベツ、ダイコン】
 II 9月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 10

○ 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、遵守すべき基準を守り、飛散防止に努めましょう。

○ 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、令和7年8月26日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 9月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例

【水稻】

生育:やや早(普及指導部:はるみ)

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使 用 す る 薬 剤 例
			◆防除のポイント
ウンカ類 トビイロウンカ	並	△	アルバリン又はスタークル粒剤 [7日,3回] 3kg/10a ダントツ粒剤 [7日,3回] ウンカ類:3kg/10a、カメムシ類:3~4kg/10a 等
斑点米カメムシ類	やや多	○	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 収穫までに日数がある場合、株元にトビイロウンカの短翅型成虫を2~3頭確認したら、防除する。 ❖ 斑点米カメムシ類に水和剤・乳剤等を使用する場合は、株元までかかるよう散布する。 ❖ 収穫2週間前までは斑点米カメムシ類の本田内への移動を防ぐために畦畔および周辺の除草を控える。 ❖ 斑点米カメムシ類の防除の詳細は、以下の資料を参照すること。 防除情報(病害虫情報号外第6号) (農業技術センター)
縞葉枯病	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 媒介虫であるヒメトビウンカがイネ縞葉枯病ウイルスを保毒する機会を減らすために、収穫後は次の対策を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ①「ひこばえ」や水田内雑草をすき込む。 ②畦畔や休耕田の除草を徹底する。
スクミリンゴガイ	—	△	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 卵塊・貝を見つけた場合は潰して捕殺する。 ❖ 詳細は、以下の防除対策資料を参照すること。 神奈川県スクミリンゴガイ防除対策マニュアル (農業技術センター)
ナガエツルノゲイトウ	—	△	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 発生している地域では水口にネット等を設置し、侵入を防止する。 ❖ 特定外来生物に指定されているため、疑わしい雑草を見つけた場合は、最寄りの農協または普及指導部まで連絡する。 ❖ 詳細は、以下の防除対策資料を参照すること。 世界最悪の侵略的植物「ナガエツルノゲイトウ」に警戒を! (農業技術センター)

[防除要否] ○:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和7年度・第6号・9月) 神奈川県農業技術センター

【カンキツ】

生育:並(足柄地区事務所研究課:普通温州)

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒点病	やや少	○	<p>(予) ジマンダイセン水和剤 みかん:[30日,4回] 400~800倍 みかんを除くかんきつ:[90日,4回] 600~800倍</p> <p>(予) ペンコゼブ水和剤 みかん:[30日,4回] 400~800倍 みかんを除くかんきつ:[90日,4回] 600~800倍 等</p> <p>☞ 上記2剤は有効成分が同じであるため、どちらかを使用する。</p> <p>◆ 8月下旬に防除した場合は不要である。</p>
かいよう病 (中晩柑類)	並	○	<p>(予) コサイド3000 [生育期,-] 2,000倍 + クレフノン [-,-] 200倍</p> <p>(予・治) カスミンボルドー 又は カッパーシン水和剤 みかん:[7日,5回] 1,000倍、 みかんを除くかんきつ:[45日,5回] 1,000倍 + クレフノン [-,-] 200倍 等</p> <p>◆ 8月下旬に防除した場合は不要である。</p> <p>◆ 傷口から感染するため、台風通過が予想される場合には予防散布を行う。</p>
カメムシ類	並	△	<p>アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] カメムシ類:2,000倍</p>
チャノキイロ アザミウマ	並	○	<p>チャノキイロアザミウマ:1,000~2,000倍 ロディー乳剤 [7日,4回] 2,000倍 等</p> <p>◆ チャノキイロアザミウマは小さく発見しにくいので、果頂部や果こう部の加害痕に注意する。</p> <p>◆ 8月下旬に防除を行った場合は、チャノキイロアザミウマに対しての防除は不要である。</p>
ミカンハダニ	多	○	<p>ダニゲッターフロアブル [前日,1回] 2,000倍 等</p>
ミカンサビダニ	やや多	○	<p>◆ 8月下旬に防除した場合は不要である。</p>

[防除要否] ○:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【ナシ】

生育:やや早(生産技術部:豊水)

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒星病	やや少	○	<p>(予) オキシラン水和剤 [3日,9回] 500~600倍 等</p> <p>☞ オキシランは混合剤。総使用回数に注意する。</p> <p>◆ 秋の降雨により、来年の芽に感染し越冬するので、発病園では必ず9月下旬～10月上旬に防除を行う。</p>
うどんこ病	やや少	△	(予・治) オンリーワンフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等
カメムシ類	並	△	ダントツ水溶剤 [前日,3回] 2,000~4,000倍 等

[防除要否] ○:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和7年度・第6号・9月) 神奈川県農業技術センター

【ブドウ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	やや少	○	(予) Zボルドー [−,−] 500～800倍 + クレフノン [−,−] 100倍 等 ◆り病葉は園外に持ち出し埋める。

[防除要否] ○:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【カキ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
カメムシ類	並	△	アルバリン 又はスタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 テルスタークロアブル [3日,2回] 3,000～6,000倍 等

[防除要否] ○:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【チヤ】

生育:並(北相地区事務所研究課:やぶきた)

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
ハマキムシ類 チャハマキ チャノコカクモ ンハマキ	並	△	ファルコンクロアブル [7日,2回] チャハマキ:4,000倍、 チャノコカクモンハマキ:4,000～8,000倍 フェニックスクロアブル [7日,1回] 2,000倍 等

[防除要否] ○:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「摘採＊日前まで」を「＊日」に、「摘採前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和7年度・第6号・9月) 神奈川県農業技術センター

【抑制トマト】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント												
葉かび病	—	○	(予) インプレッショングリア [発病前～発病初期, —] 葉かび病、すすかび病: 1,000倍 うどんこ病: 1,000～2,000倍												
すすかび病	—	○	(予) ダコニール1000 [前日, 4回] 1,000倍												
うどんこ病	—	○	(予・治) ベルクートフロアブル [前日, 3回] 2,000～4,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日, —] うどんこ病: 300～600倍 (治) ベミデタッチ [前日, —] うどんこ病: 500倍 等 ◆ 葉かび病・すすかび病は多湿条件下で発病しやすいため、換気を行う等、多湿にならないよう管理する。 ◆ 多発すると防除効果が劣るため、発病が確認される前から予防的に薬剤散布を行い、発病確認後はすぐに治療剤の散布を行う。												
コナジラミ類 タバコ コナジラミ オンシツ コナジラミ	やや多 —	○ ○	モスピラン顆粒水溶剤 [前日, 3回] 2,000倍 スピノエース顆粒水和剤 [前日, 2回] アザミウマ類: 5,000倍 チエス顆粒水和剤 [前日, 3回] コナジラミ類、アブラムシ類: 5,000倍 モベントフロアブル [前日, 3回] 2,000倍 ウララDF [前日, 3回] コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ: 2,000倍 アブラムシ類: 2,000～4,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, —] コナジラミ類、アブラムシ類: 300倍 ベミデタッチ [前日, —] コナジラミ類: 500倍 等 ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。												
アブラムシ類	並	○	◆ 生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなるため、害虫防除を徹底する。												
アザミウマ類	—	○	<table border="1"> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> <tr> <td>CMV等(トマトモザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 ◆ 施設内外の雑草防除を徹底する。 ◆ 施設開口部に0.4mm目合い以下の防虫ネットを2重被覆する。 	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															

[防除要否] ○:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なない
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和7年度・第6号・9月) 神奈川県農業技術センター

【抑制キュウリ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖ 防除のポイント										
べと病	—	○	(予) ダコニール1000 [前日,12回] 1,000倍 (予) ジマンダイセン水和剤 [前日,3回] 褐斑病:600倍、べと病:600~800倍 (予) ペンコゼブ水和剤 [前日,3回] 褐斑病:600倍、べと病:600~800倍 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。										
うどんこ病	—	○	(予) インプレッショングリア [発病前~発病初期,—] うどんこ病:1,000~2,000倍										
褐斑病	—	○	(予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,7回] うどんこ病、褐斑病:2,000倍 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] うどんこ病:2,000倍 ☞ パンチョTFは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ベトファイター顆粒水和剤 [前日,3回] べと病:2,000~3,000倍 ☞ ベトファイターは混合剤。総使用回数に注意する。 等 ❖ 多湿状態で施設を閉め切ると病害が蔓延するので、午後は換気に努める。										
アブラムシ類	並	○	モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、アザミウマ類:2,000~4,000倍										
コナジラミ類	—	○	コナジラミ類:2,000倍 ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000~2,000倍										
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	並	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:5,000倍 チエス顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:5,000倍 アファームエクセラ顆粒水和剤 [前日,2回] ミナミキイロアザミウマ:1,500倍 ☞ アファームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。 ❖ 生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなるため、害虫防除を徹底する。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> <tr> <td>CMV等(キュウリモザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(キュウリ退緑黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </table> ❖ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 ❖ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。 ❖ 施設開口部に0.4mm目合以下の防虫ネットを2重被覆する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(キュウリモザイク病)	アブラムシ類	CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)		MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(キュウリモザイク病)	アブラムシ類												
CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類												
BPYV(キュウリ黄化病)													
MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類												

[防除要否] ○:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なない
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和7年度・第6号・9月) 神奈川県農業技術センター

【促成イチゴ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
炭疽病	やや少	○	<p>【育苗期:散布】 (予) オーソサイド水和剤80 [収穫開始14日前まで,5回] 800倍 (予・治) ファンタジスタ顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000倍</p> <p>【育苗期:土壤灌注】 (予・治) ベンレート水和剤 [育苗期,3回:灌注] 500倍、50~100ml/株 等</p> <p>◆ 発病した株へ薬剤を散布しても効果は期待できないので、発病株とその隣接株は速やかに処分する。</p> <p>◆ 薬剤防除は10~14日間隔でローテーション散布し、発病が見られたら4~7日間隔に短縮する。</p>
うどんこ病	やや少	○	<p>(予) インプレッショングリア [発病前～発病初期,-] 1,000~2,000倍 (予) サンヨール [前日,6回] 500~1,000倍 (治) エコピタ液剤 [前日,-] 100倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日,-] 300~600倍</p> <p>(予・治) ショウチノスケフロアブル [前日,2回] 2,000倍 ↗ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。</p> <p>(予・治) ベルクートフロアブル [前日(生育期),5回] 2,000~4,000倍 (予・治) ハチハチフロアブル [1番花の開花まで,1回] 1,000倍 等</p> <p>◆ 高温期には、白い粉状の病斑が見られず、赤紫色の壞死斑となるが病原菌は生存している。</p> <p>◆ 本ぼに発病株を持ち込まないよう、壞死斑も含めて発病葉をできるかぎり除去し、防除を徹底する。</p>
アブラムシ類	並	○	<p>【育苗期後半～定植時:灌注】 ベリマークSC [育苗期後半～定植当日,1回] 灌注:1,000倍,25~50ml/株</p> <p>【定植時:土壤施用】 モスピラン粒剤 [定植時,1回] 植穴土壤混和:0.5~1g/株 又は 株元散布:0.5g/株</p> <p>【散布】 ハチハチフロアブル [1番花の開花まで,1回] 1,000倍 等</p>
ハスモンヨトウ	やや多	○	<p>トルネードエースDF [前日,2回] 2,000倍 アニキ乳剤 [前日,3回] 2,000倍 等</p>
ハダニ類	やや多	○	<p>【育苗期後半～定植時:灌注】 モベントフロアブル [育苗期後半～定植当日,1回:灌注] 500倍,50ml/株 又は 250倍,25ml/株</p> <p>【定植前:苗浸漬】 エコピタ液剤 [定植前,-:10秒～1分間苗浸漬] 100倍</p> <p>【散布】 エコピタ液剤 [前日,-] 100倍 カネマイドフロアブル [前日,1回] 1,000~1,500倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] 300~600倍 等</p> <p>◆ 本ぼに持ち込まないよう防除を徹底する。</p>

[防除要否] ○:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

- ▶ 訪花昆虫・天敵を利用する際は使用薬剤の影響日数に注意して薬剤の選択を行う。
- ▶ 農薬散布の際は、ミツバチ巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和7年度・第6号・9月) 神奈川県農業技術センター

【ナス】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	やや少	○	(予・治) パレード20プロアブル [前日,3回] 2,000~4,000倍 (予・治) スコア顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日,一] 300~600倍 等
			◆ 台風通過後は茎葉の傷みや多湿により病害の発生が助長されるため、天候が回復したら速やかに殺菌剤を散布する。
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ ミカンキイロ アザミウマ	並 並	○ ○	アファーム乳剤 [前日,2回] 2,000倍 グレーシア乳剤 [前日,2回] 2,000倍 コテツプロアブル [前日,4回] 2,000倍 等
オオタバコガ	やや多	○	アファーム乳剤 [前日,2回] 2,000倍 マッチ乳剤 [前日,4回] 2,000倍 コテツプロアブル [前日,4回] 2,000倍 等
ハダニ類	多	○	コテツプロアブル [前日,4回] 2,000倍 マイトコーネフロアブル [前日,1回] ハダニ類:1,000倍
チャノホコリダニ	並	○	サンクリスタル乳剤 [前日,一] 300~600倍 等

[防除要否] ○:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【ネギ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
さび病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤 [14日,3回] 600倍 (予) ペンコゼブ水和剤 [14日,3回] 600倍 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。
黒斑病	—		(予・治) ベルクート水和剤 [30日,3回] 2,000倍 (予・治) ロブラー水和剤 [14日,3回] 黒斑病:1,000~1,500倍 等 ◆ 台風通過後は茎葉の傷みや多湿により病害の発生が助長されるため、天候が回復したら速やかに殺菌剤を散布する。 ◆ 窒素の過不足は病害の発生を助長するので、適切な肥培管理を行う。 ◆ 発生初期から定期的に防除する。 ◆ 薬剤散布の際は、固着性のよい展着剤を必ず加用する。
ネギアザミウマ	やや多	○	プリロシソ粒剤オメガ [前日,3回:株元散布] 6kg/10a グレーシア乳剤 [7日,2回]
シロイチモジヨトウ	多		アクセルプロアブル [前日,2回] シロイチモジヨトウ:1,000倍 アファームエクセラ顆粒水和剤 [7日,3回] ネギアザミウマ:1,000倍 シロイチモジヨトウ:1,000~1,500倍 等 ☞ アファームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。 ◆ 薬剤散布の際は、固着性のよい展着剤を必ず加用する。

[防除要否] ○:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和7年度・第6号・9月) 神奈川県農業技術センター

【キャベツ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ♦防除のポイント
べと病	—	○	<p>(予) Zボルドー [−, −] 500倍 (予・治) リドミルゴールドMZ [30日, 3回] 1,000倍 等</p> <p>☞ リドミルゴールドMZは混合剤。総使用回数に注意する。</p> <p>♦ 台風通過後は茎葉の傷みや多湿により病害の発生が助長されるため、天候が回復したら速やかに殺菌剤を散布する。</p> <p>♦ Zボルドーで薬害が懸念される場合は、クレフノン(100～200倍)を加用する。</p>
ハイマダラノメイガ (ダイコン シンクイムシ)	やや多	○	<p>【苗地床灌注】 ジュリボフロアブル [は種時～育苗期後半, 1回: 灌注] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ネギアザミウマ、ネキリムシ類 1,000倍 (苗地床1m²あたり2L) ☞ ジュリボは混合剤。総使用回数に注意する。</p>
ハスモンヨトウ	やや多	○	<p>【セル成型育苗トレイ 又はペーパーポット灌注】 ジュリボフロアブル [育苗期後半～定植当日, 1回: 灌注] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ネギアザミウマ 200倍 (セル成型育苗トレイ1箱 又はペーパーポット1冊あたり0.5L) ☞ ジュリボは混合剤。総使用回数に注意する。</p>
オオタバコガ	やや多	○	<p>ベリマークSC [育苗期後半～定植当日, 1回: 灌注] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、アザミウマ類、ネキリムシ類 400倍 (セル成型育苗トレイ1箱 又はペーパーポット1冊あたり0.5L) ☞ ベリマークSCはプリロッソと同じ成分のため、定植時までの処理はどちらか1回とする。</p>
ネギアザミウマ	—	○	<p>【育苗期後半又は定植時: 粒剤施用】 ダントツ粒剤 ハイマダラノメイガ、ネギアザミウマ、ネキリムシ類 [育苗期後半, 1回: 株元処理] 0.5g/株 ハイマダラノメイガ: [定植時, 1回: 植穴処理土壤混和] 1～2g/株 プリロッソ粒剤オメガ [育苗期後半～定植時, 1回: 株元散布] ハイマダラノメイガ: 1g/株、アザミウマ類: 2g/株 ☞ プリロッソはベリマークSCと同じ成分のため、定植時までの処理はどちらか1回とする。</p>
ネキリムシ類	—	○	<p>【育苗期～定植後: 敷設】 ディアナSC [前日, 2回] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、アザミウマ類 2,500～5,000倍 エスマルクDF [発生初期(但し、前日), −] ハイマダラノメイガ、オオタバコガ、ネギアザミウマ: 1,000倍 フェニックス顆粒水和剤 [前日, 3回] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ 2,000～4,000倍 等</p> <p>♦ 育苗期は防虫ネットによる被覆を行う。その際は、地際部に隙間が生じないよう土や留め具で抑える。</p> <p>♦ 防虫ネットをべた掛けにすると、植物と資材が接する部分に卵を産み付け、孵化幼虫が内部に侵入してしまうため、うき掛けをする。</p>

[防除要否] ○: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和7年度・第6号・9月) 神奈川県農業技術センター

【ダイコン】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
キスジノミハムシ	一	○	【は種時:粒剤施用】 フォース粒剤 [は種時,1回:播溝土壤混和] 4~9kg/10a 等
アブラムシ類	並	○	【は種時:粒剤施用】 アクタラ粒剤5 [は種時,1回:作条混和] 4kg/10a プリロッソ粒剤オメガ [は種時,1回:播溝土壤混和] 6kg/10a 【発芽後:散布】 モスピラン顆粒水溶剤 [14日,1回] 2,000~4,000倍 等 ◆ 生育初期にCMV等のモザイクウイルスに感染すると被害が大きくなるため、生育初期のアブラムシ類防除を徹底する。
ハイマダラノメイガ (ダイコン シンクイムシ)	やや多	○	【発芽後:散布】 ディアナSC [前日,2回] 2,500~5,000倍 アクセルフロアブル [7日,2回] 1,000~2,000倍 フェニックス顆粒水和剤 [7日,2回] 2,000~4,000倍 等

[防除要否] ○:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和7年度・第6号・9月) 神奈川県農業技術センター

II 9月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 9月の気象予報(気象庁 8月19日発表3か月予報)

〈天 気〉

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	10%	20%	70%
降水量	40%	30%	30%
日照時間*	10%	30%	60%

*8月21日発表1か月予報による。

(2) 9月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稻	いもち病 (穗いもち)	少	並	1) 巡回調査では、葉いもち、穂いもちともに発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寺田縄)では、葉いもち、穂いもちともに発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並、日照時間は平年より多い予報。(±)
	紋枯病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。 (-) 2) 県予察ほ(寺田縄)では、発生が平年並。(±) 3) 県予察ほ(寺田縄:6月中旬植え、はるみ)における生育は、8月5日時点で、草丈、葉色は平年並(±)、分げつ数は平年より多い(+)。 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並、日照時間は平年より多い予報。(+)
	トビイロウンカ	少	並	1) 巡回調査では、発生が見られず平年並。(±) 2) 県予察ほ(寺田縄)では、発生が見られず平年並。(±) 3) 予察灯では、誘殺が見られず平年並。(±) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (+)
	斑点米カメムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 県予察ほ(寺田縄)では、発生が平年並。(±) 3) 予察灯への誘殺数は、県予察ほ(寺田縄)、海老名、伊勢原、小田原では平年並。(±) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (+)
カンキツ	黒点病	少	やや少	1) 巡回調査では、果実での発生が平年より少ない。 (-) 2) 県予察ほ(根府川)では、果実での発生が平年より少ない。 (-) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (±)
	かいよう病 (中晩柑類)	少	並	1) 巡回調査では、果実での発生が平年より少ない。 (-) 2) 県予察ほ(根府川)では、果実での発生が平年よりやや多く(+)、夏秋葉での発生が平年よりやや少ない(-)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (±)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
 「予報の根拠」……… (+):多発要因 (-):少発要因

病害虫情報 (令和7年度・第6号・9月) 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	チャノキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。 (-) 2) 県予察ほ(根府川)の黄色粘着トラップへの捕獲虫数は、平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (+)
	ミカンハダニ	少	多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 県予察ほ(根府川)では、無防除区、慣行防除区ともに発生が平年より多い。(+) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (+)
	ミカンサビダニ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (+)
ナシ	黒星病	少	やや少	1) 巡回調査では、徒長枝、短果枝ともに発生が平年より少ない。(−) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (±)
	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、徒長枝での発生が平年より多く(+), 短果枝での発生は平年よりやや少ない(-)。 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年より少ない。(−) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (±)
ブドウ	べと病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。 (−) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、平年より少ない。(−) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (±)
カキ	うどんこ病	少	並	1) 7月の巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生は平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (±)
果樹全般	カメムシ類	少	並	1) ナシの巡回調査では、被害果率が平年並。(±) 2) フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、伊勢原、南足柄、県予察ほ(根府川)のいずれも平年より少ない。(−) 3) 予察灯への誘殺数は、県予察ほ(上吉沢、根府川)は平年よりやや多く(+)、伊勢原で平年並(±)、山北では平年よりやや少ない(−)。 4) ヒノキ球果におけるカメムシ類の口針鞘数(県西部4地点調査)は、8月上旬に35.0本／果実と、カメムシがヒノキから離脱する目安とされる25本／果実を超え、既に離脱が始まっていると考えられる。離脱時期は平年より早い。(+) 5) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (+)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
 「予報の根拠」……… (+):多発要因 (-):少発要因

病害虫情報 (令和7年度・第6号・9月) 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
チャ	炭疽病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。 (-) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (±)
	ハマキムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 3) フェロモントラップの誘殺数は、チャハマキは山北、県予察ほ(寸沢嵐)とともに平年より少なく (-)、チャノコカクモンハマキは山北では平年並 (±)、県予察ほ(寸沢嵐)では平年よりやや少 ない(-)。 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (+)
	チャノホソガ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(-) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北では平年より 多く(+)、県予察ほ(寸沢嵐)では平年より少 ない(-)。 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (+)
	カンザワハダニ	中	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より少 ない。(-) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (+)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
 「予報の根拠」……… (+):多発要因 (-):少発要因

病害虫情報 (令和7年度・第6号・9月) 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
抑制トマト	タバココナジラミ	一	やや多	1) ナスの巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
抑制キュウリ	ミナミキイロアザミウマ	一	並	1) ナスの巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 青色粘着板(平塚、大磯)への捕獲虫数は、平年より少ない。(−) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
促成イチゴ	炭疽病	少	やや少	1) 巡回調査では、育苗期の発生が平年よりやや少ない。(−) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、育苗期の発生が平年よりやや少ない。(−) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、育苗期の発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
ナス	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(−) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ミナミキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、ミナミキイロアザミウマは発生は平年より多く(+)、ミカンキイロアザミウマの発生は平年並(±)。 2) 青色粘着板(平塚、大磯)への捕獲虫数は、ミナミキイロアザミウマは平年より少なく(−)、ミカンキイロアザミウマは平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ミカンキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ハダニ類	少	多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	チャノホコリダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
ネギ	ネギアザミウマ	中	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	シロイチモジョトウ	一	多	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜、伊勢原ともに平年より多い(+)。 2) 県予察ほ(上吉沢)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年より多い。(+) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
 「予報の根拠」……… (+):多発要因 (−):少発要因

病害虫情報 (令和7年度・第6号・9月) 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
アブラナ科 野菜	コナガ (三浦半島地区)	— (—)	やや少 (やや少)	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜、伊勢原ともに平年より少ない。(—) 2) 県予察ほフェロモントラップへの誘殺数は、三浦では平年より少なく、上吉沢では平年よりやや少ない。(—) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイムシ)	—	やや多	1) 県予察ほ(上吉沢)のクレオメへの寄生は、平年より多い。(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
野菜全般	アブラムシ類	—	並	1) ナスの巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほの黄色水盤への誘殺数は、三浦では平年並(±)、上吉沢では平年よりやや少ない(—)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ハスモンヨトウ (三浦半島地区)	— (—)	やや多 (やや多)	1) フェロモントラップへの誘殺数は、伊勢原では平年よりやや多く(+)、三浦、横浜では平年並(±)。 2) 県予察ほフェロモントラップへの誘殺数は、三浦では平年より多く(+)、上吉沢では平年並(±)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	オオタバコガ (三浦半島地区)	— (—)	やや多 (並)	1) ナスの巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、横浜では平年よりやや多く(+)、伊勢原では平年並(±)。三浦では平年よりやや少ない(—)。 3) 県予察ほフェロモントラップへの誘殺数は、三浦ではやや多く(+)、上吉沢では平年並(±)。 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)

※「発生量」……………程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少

「予報の根拠」……… (+): 多発要因 (-): 少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

★カンキツ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混合剤(ナリア)の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

★ナシ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー、ナリア、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1年2回
 - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1年2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(インダー、スコア、アンビル)の場合:1作2回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作3回

★ブドウ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ホライズン)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1年1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤(ホライズン)の場合:1年2回
 - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー、カナメ)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1年1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤の場合:1年2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(オーシャイン、オンリーワン)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

★チャ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(トリフミン)の場合:1作2回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作3回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- ◎ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターOPテイ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- ◎ CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

★ナス★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- ◎ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターOPテイ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- ◎ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターOPテイ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- ◎ DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回